

関東福祉専門学校 令和7年度 第2回 教育課程編成委員会

日時：2026年3月10日（火）

10時～12時

会場：関東福祉専門学校 301 教室

1. 開会 挨拶 関東福祉専門学校校長

2. 委員紹介

企業等役職員 加藤英樹様（撫でし子株式会社 代表取締役）

企業等役職員 小島孝司様（株式会社ウィンザー 代表取締役）

団体役員・有識者 鄭安君様（千葉大学 社会科学研究院 特任研究員）

3. 今年度の教育目標・授業内容について

・国家試験パート合格制の導入

今年度の国家試験よりパート合格制が導入されることが説明された。3分割による試験範囲を対策講座等でどのように活かすかが議論された。特にこころとからだのしくみや医療的ケアがある範囲を学生が苦手としているため、教え方の工夫が必要である。

・留学生の日本語能力向上

国家試験合格の経過措置期間が終了するため、留学生の1回目での国家試験合格が求められる。2026年度入学生には在学生以上の日本語能力を入学試験時に求める必要があると議論。日本語講師もこの議論に参加し、読解力を鍛える必要性を説いた。また、模擬試験を参考に留学生にとってどのような問題が苦手なのかを分析し、学生へ還元する取り組みをしていかななくてはならない。もちろん、この取り組みは留学生に限ったことではなく、日本人学生にも効果的である。

・国家試験対策の工夫

前年度に引き続き、少人数制（各グループ）による国家試験対策講座を展開していく。学生から質問がしやすい環境を作り、より良い学習環境を提供する。これからの模擬試験対策では合格点以上である80点を目指していく。

・特別授業について

今年度は卒業生によるアクティブラーニング授業（介護過程Ⅲ）を実施した。鴻巣警察による出前講座（自転車の乗り方）やゴミ分別講座を実施し、地域密着に関わる意識作りをした。

・実習について

昨年度よりも順調に実施できているが、1名を除いて現時点で行う実習は終了した。

4. 委員からのご意見・ご要望等

- ・ 2024 年度国家試験の合格率について

留学生 6 名のうち 1 名しか合格できなかった状況について、原因はありますかとの質問がありました。この年の入学者が少なく、留学生も新型コロナウイルスの影響で入国ができなく、日本語学校の卒業生も少ない状況がありました。そのため、少しでも多くの留学生を入学させるために、入学試験の段階で日本語能力の有無を妥協していた点が影響しております。もちろん、国家試験対策講座の見直し等、反省すべき点もあります。

- ・ 国家試験のパート合格制について

特定技能の人たちに有利な制度だと思うのですが、養成校としてはどのようにお考えですかとの質問がありました。特定技能の方々が受験しやすい制度になったと思います。養成校に通学する意味が問われているところです。養成校としては質の高い介護福祉士を輩出すること、国家試験の観点から言えば、国家試験対策講座を万全に展開して独学では補完できない質を提供することが求められていると思います。

- ・ 介護福祉士修学資金の返済について

5 回目以内に国家試験に合格できれば返済をしなくても済むのでしょうかとの質問がありました。今年度入学者分までは済みますが、来年度以降の入学者分については、経過措置終了に伴い、1 回目で合格できなければ返済しなくてはならないとなります。ただし、これは現時点での回答になり、今後猶予期間等が設けられる可能性もあります。

- ・ 国家試験の主題意図について

過年度の国家試験を見ていく中で、分かりづらい問題や言い回しが難しい問題が多々ありましたが、国家試験の出題に関して、どのような意図を持って問題を選んでいるのでしょうかとの質問がありました。出題者は恐らく過年度の出題傾向や難易度を調整して問題を作成しております。合格に必須な基本的な問題から、注意力や応用を効かせた難解な問題まで幅広く、受験者が回答できるかどうかを予想して出題しているはずです。最近の時事問題から派生した問題であるならば、介護福祉士を目指す者であれば回答してほしい等、そのような意図を持って出題に影響させているかもしれません。

- ・ 留学生の就職先の確保について

留学生の卒業後の進路はいかがでしょうかとの質問がありました。留学生の場合は多くの学生が修学資金貸付を行っています。貸付には連帯保証人が必要で多くが法人です。その保証人先でそのまま就業されることが多いです。

- ・ 留学生の日本語理解力について

ルビ付きの国家試験がありますが、これは留学生にとって良いことなのでしょうかという議論を行いました。ルビ付き問題だと受験のハードルが下がり、受験しやすいように思います。ただし、ルビ付きだとルビのところだけ読んで、漢字を見なくても済んでしまうという傾向があります。これだと漢字を学習しない危険な状態にもなりますの

で、ルビの使い方には工夫が必要です。漢字の練習も引き続き継続していきます。

- ・学習時間の有無について

学校以外での学習時間が確保されていないかもしれませんという意見がありました。

学校内では勉強しているが、自宅等で勉強するという習慣がない雰囲気を感じます。

せっかく養成校に入学したのであれば、学習する時間を貴重に思い、有意義に時間を費やしてほしいと思います。

- ・合格者の声に触れる機会はありますかとの質問がありました。毎年、6月～7月に卒業生が集合する卒後研修会を実施しております。そこで、卒業生の現在の仕事の状況等を聴きますが、国家試験の勉強の仕方等を質問できる時間を用意しております。

5. その他 次回委員開催の日程について

次回(第2回) : 2026年3月10日(火) 10時～12時

6. 閉会